

科目名		建築計画Ⅲ			
担当教員		佐藤 静		実務授業の有無	有
対象学科		一級建築士専攻科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築計画は、一般的に「計画原論（環境工学）」・「計画各論」・「建築設備」に大別される。計画原論は、建築物を取り巻く外部環境としての自然気象や都市気候について、また人体の生理におかかわる室内環境について学ぶ。計画各論は、人間工学的観点からの建築物各部の計画上の留意点及びそれぞれの目的別に計画される建築物についての計画上の諸要素とその具体的検討事項について学ぶ。建築設備は、給排水・衛生、空調、電気設備など建築物を維持管理するのに必要な各設備における具体的な事項を学ぶ。			
学習目標（到達目標）		模擬試験を通して知識を定着させ、二級建築士学科試験「建築計画」において、20点（25点中）以上を目指す。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		2級建築士講座テキスト [学科Ⅰ建築計画] 2級建築士問題集 [学科Ⅰ建築計画] 総合資格学院			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	気候・空気熱			温熱感覚の要素・指標、空気線図の読み取りから温度や湿度の変化・結露の発生等を学ぶ。空気汚染の概要と法規制との関係性を理解する。必要換気量・換気回数の計算を学ぶ。	
2	光音色彩			わが国における季節ごとの太陽の動きや日影・採光について理解する。音響は、人間の聴覚の特徴や、吸音・遮音等による心理的な効果等。色彩は照明と関連付けて学ぶ。	
3	空気調和設備			空気調和機の機能や構成、建築物の熱負荷によるゾーニング、代表的な空調方式の特徴を理解する。また、省エネルギーの観点からパッシブソーラー等の技術を学ぶ。	
4	給水設備 排水・衛生設備			給水設備では、飲料水の安全性を確保する手法や基準、給水の方式ごとの特徴を学ぶ。排水衛生設備では、トラップや間接排水、環境対策として排水の再利用等を学ぶ。	
5	電気・照明設備			電気設備や配電方式の特徴、照明の基本計画、各光源の特徴を学ぶ。照明は、色彩計画と関連付けて学ぶ。	
6	環境・省エネルギー			火災発生メカニズム、消火の理論を学び、各種消火設備、火災報知設備及び避難誘導設備を理解する。	
7	住宅建築 商業建築			住宅建築における留意事項、集合住宅の形式による特徴を知る。事務所建築や店舗の用途別留意点を学ぶ。	
8	文化施設 教育施設 医療・福祉施設			公共建築では動線やゾーニングを理解し、法規や設計製図とも関連付けて学ぶ。	
9	各部計画 建築生産 都市計画			建築物の細部の寸法・形状等について、標準的なものを理解し、また高齢者等にも配慮した計画について学ぶ。建築基準法やバリアフリー法で定められる内容を確認する。	
10	建築史			日本建築史・西洋建築史のそれぞれを、古代から遡って移り変わりを理解し、近年に至るまでの代表的な建築物や様式、設計者について理解を深める。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	模擬試験		近年、建築士試験の「建築計画」では、新傾向や初出題の選択肢が多い傾向がみられ、過去問や例題、または一級の試験問題も使用し、新規出題にも対応できる力を養います。	
10 %	%	90 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		一級建築士・インテリアコーディネーター・福祉住環境コーディネーター1級、住宅設計10年			

科目名		建築構造Ⅲ			
担当教員		木原 隆明		実務授業の有無	有
対象学科		一級建築士専攻科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築士試験は耐震偽装問題を境に益々難易度が高くなり、非常に取得しにくい資格となっている。中でも建築構造は、構造力学という数学を使用する分野も含んでおり、苦手意識を持つ生徒も少なくない。過去問題を中心に授業を進め、かつ、補講を活用することで構造に対する苦手意識を取り除きたい。			
学習目標（到達目標）		二級建築士学科試験「建築構造」において、21点（25点中）以上の取得を目指す。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		2級建築士講座テキスト【建築構造】、同 問題集【建築構造】、同 トレイントレーニング【建築構造】			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	力のつりあい、反力			力の種類、力のつり合い、反力の性質、力のつり合い条件式を理解する。	
2	応力、トラス			応力の種類を把握し、静定ばり、静定ラーメン、トラスの応力算出を理解する。	
3	断面の性質、座屈			断面1次モーメント、断面2次モーメントと断面係数、オイラー式を理解する。	
4	応力度			考え方を理解し、確実に問題を解けるようにする。	
5	荷重・外力、構造計画			構造計算時の荷重の種類や特徴を把握し理解する。建物の安全性確保のために注意すべき事柄を理解する。	
6	地盤、基礎			土の性質並びに地盤の種類と特性を理解する。基礎構造における、基礎の種類の違いと特徴を理解する。	
7	木造			試験において出題率の高い項目となる。木材の性質と木構造の特徴を中心に理解を深め、さらに実務的な側面からの解説も行う。	
8	鉄筋コンクリート造、壁構造			コンクリートを構成する材料や調合、コンクリートと鉄筋の関係を理解する。コンクリートブロック造や壁式コンクリート造についても学習する。	
9	鉄骨造、その他の構造等			鋼材の種類と特徴や部材の接合（溶接、ボルト）を理解する。SRC,PC,PCa造や制振および免震構造、既存建物の耐震診断等の理解を深める。	
10	その他の建築材料			石材や塗料、ガラスなど多岐に渡るが写真等を用いて理解しやすく説明し、問題を解けるようにする。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	模擬試験	小テスト	1級、2級を問わず、年々難度の増している建築士試験である。4ヶ月間しっかりと集中して授業に取り組み、かならず全員合格を勝ち取ってほしい。	
20 %	%	60 %	20 %		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		主にRC造、S造、木造の構造設計、監理、施工管理、技術開発に50年係わってきた。			

科目名		建築施工Ⅲ			
担当教員		仁多見 透		実務授業の有無	有
対象学科		一級建築士専攻科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築の施工は、建築の技術者としての基本的な理論を理解する必要があることと、2級建築士の学科試験に合格する為の知識として、規定値を暗記する必要があるため、この2点に重点を置き講義をします。特に施工は経験工学と言われる程、実際の現場や作業の流れを視覚から理解をしないと難しい面があるので、施工写真や、図を見せながら、講義をします。また数値の暗記は語呂などを声に出させ、また、ノートに書くことで聴覚と手を動かすことで脳を刺激して記憶の定着を図ります。			
学習目標 (到達目標)		二級建築士学科試験「建築施工」において、20点(25点中)以上の取得を目指す。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		2級建築士講座テキスト【学科Ⅳ建築施工】総合資格学院 2級建築士講座問題集【学科Ⅳ建築施工】総合資格学院			2
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	1・1 契約 1・2 施工計画 1・3 管理計画			達成目標：理解度確認テスト(問001-011)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問012-022)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問023-055)の正解率8割以上	
2	2・1 仮設工事 2・2 地盤・土工事・基礎 2・3 鉄筋工事			達成目標：理解度確認テスト(問056-066)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問067-079)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問080-092)の正解率8割以上	
3	2・4 型枠工事 2・5 コンクリート工事 2・6 鉄骨工事			達成目標：理解度確認テスト(問093-102)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問103-123)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問124-145)の正解率8割以上	
4	2・7 コンクリートブロック工事 2・8 ALCパネル工事 2・9 押し出し成形セメント工事			達成目標：理解度確認テスト(問146-153)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問154)の正解率10割 理解度確認テスト(問155・156)の正解率10割	
5	2・10 木工事 2・11 防水工事 2・12 屋根工事			達成目標：理解度確認テスト(問157-187)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問188-194)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問195・198)の正解率10割	
6	2・14 左官工事・タイル・石工事(融合) 2・15 塗装工事			達成目標：理解度確認テスト(問199-209)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問210-220)の正解率8割以上	
7	2・16 建具・ガラス・内装工事(融合) 2・17 改修工事 2・18 設備工事・各部工事融合			達成目標：理解度確認テスト(問221-231)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問232-242)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問243-253)の正解率8割以上	
8	3・1 施工機械・器具 3・2 測量 3・3 積算・見積			達成目標：理解度確認テスト(問254-260)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問261-264)の正解率8割以上 理解度確認テスト(問265-275)の正解率8割以上	
9	過去問題2巡目および過去の模試問題			学習方法：1・11～3・3に共通 正解率8割をめざし、未達の生徒には補習などで個別指導	
10	直前対策			学習方法：1・11～3・3に共通 正解率9割を目指し、未達の生徒には補習などで個別指導	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
	%	%	模擬試験 90%	小テスト 10%	施工の試験は比較的、過去問の出題割合が多いので、過去問での何でそうなるのかの理論、理屈を理解してから、その規定値を暗記すれば、必ず高得点になります。 毎回、予習・復習を行ってください。
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		仁多見 透：一級建築士、一級建築施工管理技士として16年間建築施工管理に携わる。			

科目名		建築法規Ⅲ			
担当教員		上石 茂美		実務授業の有無	有
対象学科		一級建築士専攻科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築基準法と関係法令を学び、試験だけでなく将来実務で役立つ知識を身に付けさせる。授業中は、法令集+テキスト+問題集の伝えたページを見ているかどうかチェックする。読みにくい条文などにはアンダーラインの追加やマーカーを入れる指示を出す。進め方は「少し解説して、少し問題を解く」を繰り返す。			
学習目標（到達目標）		法規が得意科目になるよう指導し、二級建築士合格はもちろんのこと、一級建築士の法規では30点満点中25点以上得点できることを目標とし、今から準備をさせる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		1. 建築関係法令集令和5年版 2. 令和5年度受験2級建築士講座テキストⅡ建築法規 3. 令和5年度受験2級建築士講座問題集Ⅱ建築法規 (すべて総合資格学院)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	①用語の定義 ②確認申請 ③建築手続き			①法令集+テキストの図で用語を確認 ②確認申請の種類の解説+種類ごとに問題集で問いを紹介 ③法令集の条文の順に解説	
2	①面積・高さの算定 ②建蔽率 ③建築士法			①法令集+テキストの図で説明 ②①の建築面積の説明から建蔽率を解説し計算問題の解き方をレクチャー ③ボリュームが多いので目次を使い章ごとに説明	
3	①敷地等と道路 ②用途地域			①42条2項道路は計算問題に出ることの説明 ②法別表2と地域ごとの説明出題の多い地域は問題で練習	
4	①高さ制限 ②日影規制			①計算式の暗記、問題で練習 ②問題で練習	
5	①バリアフリー法 ②品確法 ③瑕疵担保履行法 ④建設業法			①定義+一級製図で関連する事の説明 ②③セットで講義 ④関係法令融合問題で出題数が多いことの説明	
6	①耐火・防火 ②防火地域・準防火地域			①火に関連する用語の定義を確認 ②27条と合わせ解説	
7	①一般構造 ②防火区画 ③避難施設等 ④消防法			①法令集のどこ見て計算するか説明 ②出題される3区画のみ解説 ③法令集の順に解説 一級製図で関連するものを紹介 ④問題の解き方を解説	
8	①構造計算・構造強度			①法令集にインデックス追加を指示 問題集で1問ずつ解きながら講義	
9	①内装制限 ②雑則			①制限を受ける建物と使用する材料の解説 覚えられる所は暗記 ②広い範囲からの5択問題なので分類して講義	
10	①都市計画法 ②耐震改修促進法 ③長期優良法			①条文多いので出題されるところに的を絞って講義 ②③過去の問題を確認	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題			二級建築士試験のための学習だけではなく、一級建築士試験での出題内容を紹介し、今の学習を継続して習得した内容を定着させることの大切さを伝える。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		設計事務所にて17年間設計・工事監理の業務を経て独立。			